

看護の現場より

看護学生のみなさんに、私たちが日々看護を実践している現場での奮闘ぶりや、看護に対する熱い思いをシリーズで紹介します。

老健の知恵をしばって 希望を叶える他職種チーム連携

介護老人保健施設 ひだまりの里
細井 奈々絵さん



■ はじめに

介護老人保健施設(以下、老健)ひだまりの里は、利用者様が在宅復帰するために病院から継続してリハビリを行う所です。医師、看護師、介護士によるケア(食事・入浴など)はもとより、作業療法士や理学療法士、言語聴覚士によるリハビリテーション、管理栄養士による栄養管理などの日常サービスを提供しています。

利用者様一人ひとりの目標に合わせたケアプランのもと、専門スタッフがケアを提供し安心した生活を送ることができる施設です。

事例①

膀胱留置カテーテルからの解放



食事介助の様子

入院中に尿閉の診断を受けたAさんは、膀胱留置カテーテル(以下、カテーテル)を留置した状態でひだまりの里へ入所されました。認知症のためカテーテルを留置している自覚がもてず、尿意を訴えてはトイレへ行きたい焦燥感にかられる日々。ADLが向上するに従い、ベッドへの移動時に無意

識にカテーテルを自己抜去してしまうことも増えました。ご家族様もカテーテル管理に不安を抱かれ、在宅復帰が叶わずにいました。

また、特別養護老人ホームへ入所するとしてもカテーテルが留置されていることは入所

判定時の大きなハードルとなってしまうので、医師に相談し泌尿器科の専門医へ紹介。その結果、投薬・指示のもとカテーテル抜去を試みることになりました。抜去をしてみると尿意の訴えはむしろ減り、失禁することなくトイレでの排泄も成功しました。数回のお試しののち、正式に抜去することができました。カテーテル留置中は浮遊物などで詰まるほど尿の混濁がひどかったのですが、抜去してからはきれいな尿が出るようになりました。夜間はオムツを使用することで長時間の睡眠が確保できるようになりました。カテーテルに行動を制限されることがなくなり、ストレスも軽減された様子で行動範囲が広まり、ADLもUPしました。このように、他職種と連携し利用者様の将来を見据えて対応し、QOLの向上を目指すことも老健の重要な役割のひとつです。



PPEの脱ぎ方を介護職へ伝授



クリスマス会の様子

事例②

将棋の駒を口の中へ異食！ 対策は急務

入所時から徘徊して過ごすことが多かったBさん。趣味が将棋とわかり、対局相手の利用者様が出来てからは暇を惜しんで将棋に取り組み、ご家族様もその姿をとっても喜んでおられました。ところがある日、Bさんの口の中から将棋の駒が見つかるというアクシデントが起きました。最悪の場合、窒息にもつながりかねない事態です。

ひとまず将棋は片付けられましたが、将棋をしていないとBさんは廊下を徘徊し続け、疲労から転倒するという問題も抱えていました。そこで看護と介護のスタッフで4センチ角の立方体の木材を使い将棋の駒

を作ることにしました。それに合わせて将棋盤も大きなものに作り直しました。Bさんは窒息する心配のない手作りの駒でその日からも将棋を続けることができました。

安全を理由に利用者様の楽しみや生きがいを取り上

げる結果にならずに済んだことが嬉しく、何よりも利用者様の笑顔が見られたことで、私たちスタッフも笑顔になれた出来事でした。



お正月の初詣をしました。

外へ行けないコロナ禍、リハスタッフの力作です



■ 看護学生のみなさんへ

多くの方が在宅復帰を目指される中、看護師として健康や安全を守るだけでなく、生きる目的や目標、意味をともに探し求めることはとても大切です。利用者様の笑顔が私たちの笑顔の源であることを、利用者様が教えてください。日ごろの経験や体験から得た知識や知恵を活かして、どんな小さなことでも希望や願いをともにかなえる、そんな看護師と一緒に目指していきたいでしょう。現場でお待ちしています。